うきたむ考古通信

2022年12月号

■発行者　うきたむ考古の会
事務局　山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館　内
〒992－0302　山形県東置賜郡高畠町安久津2117
電話0238－52－2585　Fax 0238－52－4665

展覧会のご案内

❤俵田遺跡出土品展

県指定有形文化財考古資料「俵田遺跡祭祀遺構出土品附木製品残欠一括」を、昨年の「お花山古墳群出土品」の展示に続いて令和５年１月 20 日(金)～3 月 19 日(日)にテーマ展「古墳時代から中世の考古資料」を開催している企画展示室の一部を使って公開することになりました。

展示担当はは山形県観光文化スポーツ部文化財活用課です。

令和４年度企画展「最上地域の縄文時代」関連事業の結果

(1) 第 24 期考古学セミナー

第 30 回企画展「最上地域の縄文時代」の開催にちなみ、最上地域の縄文時代早期から晩期までの遺構や遺物について先生方からお話しをうかがいました。

第１回(９月 25 日(日))

・最上地域の縄文時代早期・前期の遺構と遺物

考古資料館館長　　渋谷孝雄

縄文時代早期の滝ノ沢山遺跡、福田山Ａ遺跡、仁間磯ノ沢Ｂ遺跡、外久保遺跡、前期では福田山Ａ遺跡、仁間磯ノ沢Ｂ遺跡、上竹野遺跡、太郎水野１、滝ノ沢山遺跡、本町遺跡、水上遺跡の検出遺構と出土品について概ね編年順についての解説があった。

・最上地域の縄文時代中期前葉から中葉の遺構と遺物

(公財)山形県埋蔵文化財センター　　菅原　哲文　氏

最上地域の大木７ａ式～大木８ｂ式の中期中葉までの遺跡である西ノ前遺跡、中川原Ｃ遺跡、水木田遺跡の遺構と遺物について詳細な解説があった。

第２回(10 月２日(日))

・最上地域の縄文時代中期後葉の遺構と遺物

(公財)山形県埋蔵文化財センター　　水戸部秀樹　氏

鮭川村小反遺跡で検出された中期後葉の住居跡と掘立柱建物跡の説明があり、出土した土器と石器についての解説があった。遺構の重複が少なく、大木９式から 10 式にかけての比較的短期間の集落と捉えられた。

・最上地域の縄文時代後期の遺構と遺物

(公財)山形県埋蔵文化財センター　　水戸部秀樹　氏

主として最上町のかっぱ遺跡で検出された竪穴住居跡と掘立柱建物跡からなる集落について類例の解説を含めた説明があり、堀ノ内１式併行期から加曽利Ｂ２併行期までの土器と石器について説明があった。

第３回(10 月９日(日))

・最上地域の縄文時代晩期の遺構と遺物

(公財)山形県埋蔵文化財センター　　小林　圭一　氏

東北地方の晩期を概観する中で、最上地域の遺跡についても詳細な説明があった。最上地域か北から南への、そして西から東への交易ルートの十字路にあたり、文物が往来したとのこと。追加で東北各地の晩期の調査成果を受けた研究成果が披露された。

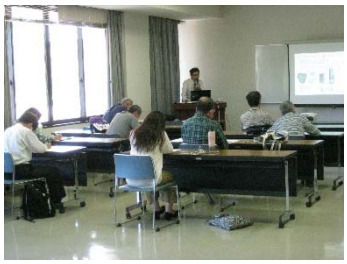
・縄文時代の緑色石英製玉とその分布

秀明大学教授　　三澤　裕之　氏

今回の企画展特別枠でその構成も含めて展示していただいた材木遺跡出土の緑色石製の玉と近年の氏の調査成果による精力的な緑色石英の分布に関する研究成果の解説があった。

菅原氏の講座

三沢氏の講座



(2) 記念講演会

演題　「最上地域の縄文時代」
講師　阿部明彦氏（山形考古学会会長）
期日　11 月 13 日（日）

講演要旨（当日配布資料から）

１ 向町盆地の遺跡について

① 水木田遺跡・熊の前遺跡
重文指定の大型土器他の出土遺物、土偶・石製品。熊の前遺跡の石冠と石笛
② 水上遺跡・かっぱ遺跡（縄文後期の土器他出土遺物）
③ 材木遺跡・げんだい遺跡（縄文晩期の遺構と遺物）
げんだい遺跡の埋設土器群（埋甕）
材木遺跡の緑色石英（縄文晩期の玉文化の一翼を担う石材）

２ 舟形盆地における遺跡について

① 西ノ前遺跡（西ノ前型土偶の標識遺跡）

３ 新庄盆地の遺跡について

泉田川右岸
① 中川原Ｃ 遺跡
金山川左岸
② 本町遺跡
鮭川左岸
③ 小反遺跡
真室川左岸
④ 釜淵Ｃ 遺跡
真室川右岸
⑤ 中台４・５遺跡
最上川左岸
⑥ 白須賀遺跡
銅山川左岸
⑦ 上竹野遺跡

４ まとめ

早期や前期前半までは詳細不明。前期後半から土器などの内容が判明するが、ここでは概ね大木式土器文化圏のそれと共通し、中期前・中葉には水木田・西ノ前・中川原Ｃなどの中核的遺跡が形成される。また、中期後葉にも小反・釜淵Ｃ・中台４・５遺跡等の複式炉を伴う大規模な集落が展開し、より北方系に比重を置く後期文化へと繋がって行く。縄文晩期では、釜淵Ｃ・げんだい・材木・上竹野遺跡等の特色ある遺跡の存在が目立ち、晩期から弥生前期への移行を探る上での良好な資料が多い。

最上地域の地理的な特性からか東北北部と同中部の接点としての性格が各時期に顕在化していると見ることができ、村山や庄内地域との比較検討が必要である。

秋の遺跡めぐり

10 月 16 日（日）　西川町の遺跡と文化財

岩根沢三山神社、お仲間林遺跡、弓張平遺跡群、
日本一の大栗、大井沢自然博物館、大日寺跡
西川町歴史文化資料館、月山の酒蔵資料館

今回は昨年の春に計画したものの、コロナの感染拡大に伴い、高畠町当局から中止命令が出て断念した西川町の文化財と遺跡めぐりました。秋晴れに恵まれ、自然を堪能出来た遺跡めぐりでした。最初は東北で最大の木造建築の岩根沢三山神社、丁度、日本遺産関連で岩根沢太々神楽の撮影が行われていました。つぎは多くの接合資料が出土した旧石器時代のお仲間林遺跡へ。近年まで石器が採集できましたが、畑が耕作されず、原野状態でしたので石器は拾えませんでした。そして、同じく旧石器時代の遺跡で県内では珍しい層位的発掘がなされた弓張平Ｂ遺跡をはじめとする弓張平遺跡群をみて、月山の紅葉が楽しめる志津野営場の沼から月山を眺め大井沢へ。た県指定天然記念物「日本一の大栗」を見て、昼食会場へ。山菜キノコそばに舌鼓を打ちました。

午後は、自然史博物館で自然や民俗の展示を見て、和紙やメノウの体験工房でも説明を受けました。そのつぎは大伽藍のあった大日寺跡へ。礎石の残る大きな建物跡は圧巻でした。近年オープンした西川町歴史文化資料館では鎌倉殿の 13 人の大江広元公に関わる特別展がありました。最後は月山の酒蔵資料館へ。展示を見た後、思い思いの酒を購入し、帰途へとつきました。

岩根沢三山神社前にて

三山神社の中で説明を受ける

岩根沢三山神社の太々神楽

お仲間林遺跡にて

紅葉の月山を背景に記念写真

日本一の大栗の前で

大井沢自然史博物館のモリアオガエル(左緑、右黄色)

大井沢の動物

蓑のデザイン展

和紙工房

メノウ工房

大日寺の建物跡の礎石

大日寺山門

西川町歴史文化資料館での説明を聞く

月山の酒蔵資料館にて

自主事業委員会との共催の体験講座の結果

♥勾玉・弓矢・石器をつくろう

11 月 3 日(火・祝日)に開催しました。参加者は勾玉が４組８人、弓矢が４組８人、石器が５組７人でした。

♥ガラス玉をつくろう

11 月 26 日(土)に開催しました。５組の参加がありました。

♥古代風ブレスレットをつくろう

12 月３日(土)に開催しました。２名の参加に留まりました。

♥大人の自由研究

12 月４日(日)　12 月 11 日(11 日)の２回開催しました。処理場所の関係で各日６名を募集しましたが、どうしてもという方もあったので、16 時開始のダブルヘッターも受け入れ、各日とも７名の参加となりました。

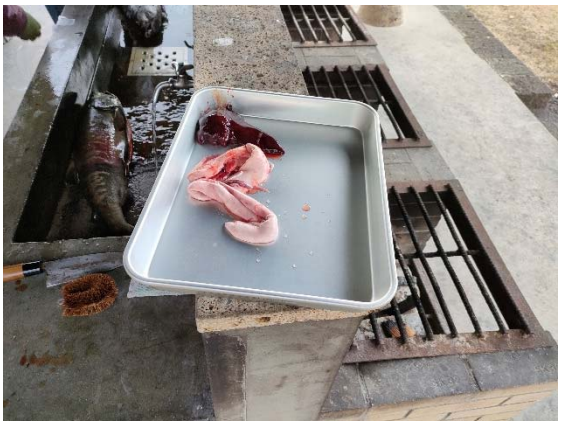
遡上したサケ

サケ敲き棒

購入したサケ

サケのヌメリ落とし

腹を割く



白子とレバー等

塩を擦り込んだサケ

水を入れたポリ袋を重しにして５日間

2022 年度山形の考古資料検討会のご案内

ここしばらくコロナの感染拡大のため開催できなかった「考古資料検討会」を山形考古学会と共催で開催することとなりました。今年は米沢市、南陽市、高畠町で発掘調査が実施されています。また、元当館職員の秦　昭繁氏の研究報告もあります。

２０２２年度山形の考古資料検討会　開催要項

（山形考古学会　研究大会）

１．名　　称　　山形の考古資料検討会

２．開催期日　　令和 5 年 2 月 26 日（日）午後 1 時 30 分から午後 4 時 00 分

３．開催趣旨　　令和 4 年度に県内で行われた発掘調査やこれまでに発掘された資料について関心を高めるとともに、考古学の進展、文化財保護の気運の醸成をはかることをねらいとして開催するものである。

４．会　　場　　山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館　研修室

５．主　　催　　山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

６．共　　催　　山形考古学会

７．内　　容（予定）

【基調報告】（報告 15 分）

「2022 年県内の発掘調査の概要」

山形県観光文化スポーツ部　文化財活用課

【調査報告】（順不同）（発表 20 分）

「台ノ上遺跡 16・17 次調査」（米沢市）　　米沢市教育委員会　佐藤公保　氏

「南森遺跡」（南陽市）　　南陽市教育委員会　角田朋行　氏

「大在家遺跡 22 次調査」（高畠町）　　高畠町教育委員会　水口　哲　氏

「層序学・堆積学による前期旧石器出土の遺跡認識」

―上屋地 B 遺跡を主に―　　山形考古学会会員　秦　昭繁　氏

事務局からのお知らせ

会誌「うきたむ考古」原稿募集締め切り

年度末発行予定の会誌 27 号の原稿を募集中です。現在までに投稿がありません。皆さんの会誌です。論文、研究ノート、短歌、俳句、川柳、紀行文等、何でも結構ですので投稿をお願い致します。締め切りは１月末となっています。

※今号は年末の発行となりました。皆様、どうぞいいお年をお迎えください